

奄美大島の魚類相調査

吉田朋弘・畑 晴陵・小枝圭太・ジョン ビョル・本村浩之

Ichthyofaunal Survey in Aamami-Oshima Island

YOSHIDA Tomohiro, HATA Harutaka, KOEDA Keita, JEONG Byeol and MOTOMURA Hiroyuki

鹿児島大学総合研究博物館
The Kagoshima University Museum

要旨

2015年7月19日から28日にかけて奄美大島において海水域では潜水、追い込み、釣り、淡水域ではタモ網による魚類採集と市場での鮮魚収集を併せた魚類相調査を行った。その結果、同島から約260種537個体の魚類が採集された。このうち、笠利湾で採集されたネットイフサカサゴ属の1種は、既知の同属他種には同定できないことから未記載種（新種）であると考えられる。

はじめに

奄美大島では、鹿児島大学総合研究博物館をはじめとする国内の多くの研究機関によって魚類学術調査が行われ、2014年にアマミホシゾラフグ *Torquigener albomaculosus* が発見されるなど、同島の魚類多様性と魚類相の特徴が解明されつつある。奄美大島における魚類の断片的な知見は蓄積されているものの、まだ全体を網羅した魚類相に関する論文は出版されていない（本村 2012, 2015, MATSUURA 2014）。

これまで長年にわたって奄美大島の南部（特に瀬戸内町）を中心とした魚類相調査が行われてきたが、島の北部では調査がほとんど行われていない。そこで、奄美大島全域の魚類相を明らかにするために、今回は島の北部を中心に調査を行い、データの蓄積に努めた。

方法

2015年7月19日から28日にかけて奄美大島の魚類相調査を行った。同島では潜水調査で得られた魚を中心に標本とし、さらに釣獲した個体や市場で購入した個体も併せて標本とした。笠利町を調査地点として選定し、この地点を中心として魚類の採集をおこなった。市場調査は名瀬漁港を中心におこなった。

潜水調査によって得た個体をエアレーションで生かしたまま、市場調査および釣りによって得た個体をクーラーボックスで氷冷して鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室に持ち帰り、標本登録、種同定、DNA解析用筋肉切片の採取、展鱗、撮影、固定等の一連の標本作製作業をおこなった。なお、現地での標本処理や写真の撮影が不可能なほど大型の個体に関しては、鹿児島大学（鹿児島市）に搬送した後に同様の処理をおこなった。

結果

奄美大島の北部における4日間の潜水調査により196種391個体の魚類を採集することができた。このうち、島南部の瀬戸内町の調査では得られなかったイトウダイ科、スズメダイ科、およびタカサゴ科に属する種の標本を得ることができた。フサカサゴ科ネットイフサカサゴ属の1種は、眼下骨隆起の構造や後頭窩の深さから同属の既知種とは明らかに異なり、未記載種であると考えられる(図1)。また、複数回おこなった島中部における追い込み漁では、16種18個体が採集され、これまでに奄美大島から採集されていなかったブダイ科アオブダイ属の1種1個体が得られ、この標本により本種の分布の北限を更新することになった。釣りによる採集では25種48個体、淡水域のタモ網を用いた採集では5種15個体が採集され、打ち上げにより1種1個体の標本を得た。

魚市場における調査では、35種39個体が採集され、クロコシヨウダイ *Plectorhinchus gibbosus* (Lacepède, 1802) やクエ *Epinephelus bruneus* Bloch, 1793、ヒラソウダ *Auxis thazard thazard* (Lacepède, 1800) など、これまで南部の瀬戸内漁港を中心とする調査では得られなかった種の収集することができた。また、ニシン科やハタ科、イトヨリダイ科、ブダイ科など幅広い分類群にわたって、これまで奄美大島からの報告例のない種の標本の収集を行うことができた。さらに、テンジクダイ科スジイシモチ属の1種1個体が名瀬漁港に水揚げされた漁獲物に混在していた。本種は国内では大隅諸島の硫黄島と沖縄諸島の伊江島から1個体ずつ標本が得られているのみであり、今回の調査で得られた標本は日本からの3番目の記録となる。

また、奄美海洋展示館から渡譲された標本は14種25個体であり、そのうち奄美大島から初めての記録となるアジ科の1種と、これまで沖縄島以南で生息が確認されており、分布の北限更新が確認されるアイゴ属の1種の標本が得られた。

以上のように、奄美大島での潜水作業をはじめとする様々な手法による標本採集により、未記載種や多くの北限更新種を採集することが出来た。

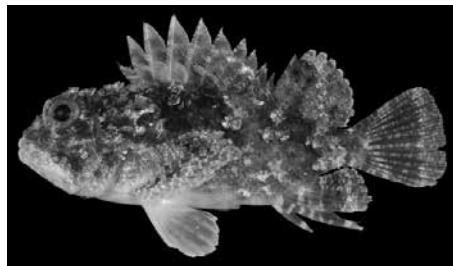


図1 奄美大島から採集されたフサカサゴ科ネットイフサカサゴ属の1種

引用文献

- 本村浩之 2012. 黒潮が育む鹿児島県の魚類多様性. 「黒潮の魚たち」(松浦啓一編), 19-45, 東海大学出版会, 東京.
- 本村浩之 2015. 未知の魚続々 新種の宝庫 世界有数の魚類多様性. 生物多様性と保全 奄美群島を例に⑰. 南海日日新聞 2015年8月28日.
- MATSUURA, K. 2014. A New Pufferfish of the Genus *Torquigener* that Builds “Mystery Circles” on Sandy Bottoms in the Ryukyu Islands, Japan (Actinopterygii: Tetraodontiformes: Tetraodontidae). Ichthyological Research, DOI:10.1007/s10228-014-0428-5.